

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった
小型のヤクシマダカラの成貝

久保田 信

はじめに

ヤクシマダカラ *Cypraea (Maurita) arabica asiatica* (Schilder & Schilder, 1939)は南方系の巻貝で、本州房総半島以南からインド・西太平洋にかけての潮間帯から水深 20 m の岩礁やサンゴ礁に生息する (堀, 2000; 池田・淤見, 2007)。成貝の大きさはたいへん変異が大きく、我が国では殻長の幅は 29.1~86.3 mm であるが (池田・淤見, 2007)、2012 年までの過去約 20 年間、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった多数のヤクシマダカラを筆者らが調べた結果、日本最小個体 (殻長 29 mm) を記録した (久保田・岸田, 2005; 久保田, 2012)。今回、その最小個体よりわずかに大きい、たいへん小さなヤクシマダカラが 1 個体打ち上がったので報告する。

結果と考察

和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所“北浜”で、2014 年 11 月 21 日、殻長 32 mm の大変小さなヤクシマダカラの貝殻が打ち上がっていた。その成貝の殻の表面は擦れていたが、側面の特徴的な模様は消失していなかった (図 1 左)。しかし、背面の模様はほぼ消失しており (図 1 右)、小さな穴が一つ開いていた。また歯の部分に多毛類 (環形動物) の棲管 1 個が付着していた (図 1 中央)。この貝が死亡後に付着したものと推察される。

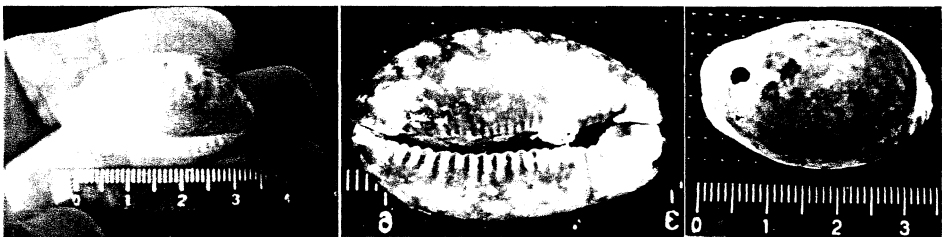


図 1. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった

たいへん小さなヤクシマダカラの成貝を様々な角度で撮影した写真（左：側面図；中央：腹面図；右：背面図）。

本調査区域ではこの様な極端に小型の個体は稀だが、同区域から 2005 年に打ち上がった日本最小個体（久保田, 2012）より本個体はわずか 3 mm だけ大きかった。なお、本種の世界最小記録は、殻長 24.6 mm で（池田・淤見, 2007）、白浜産より一回り小さい。

引用文献

- 堀 成夫 2000. タカラガイ科. 奥谷喬司(編著) 日本近海産貝類図鑑, pp. 224-239. 東海大学出版会, 東京.
- 池田 等・淤見慶宏. 2007. タカラガイ・ブック. 214 pp., 東京書籍, 東京.
- 久保田 信・岸田拓士 2005. 和歌山県西 牟婁郡白浜町臨海"北浜"におけるヤクシマダカラ（タカラガイ科）の成貝貝殻の打ち上げ数の季節変化. 漂着物学会誌, 3: 48-49.
- 久保田 信 2012. 和歌山県白浜町産ヤクシマダカラ（巻貝綱, タカラガイ科）の最大と最小の成貝. Molluscan Diversity, 3(2): 97-98.

くぼたしん（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）